



市民の主体的な活動が活発に

今年4月に市民の様々な活動の拠点施設として、市内一斉に立ち上げられた各交流センターでは、コミュニティ活動団体を中心に各種団体が協働し、それぞれに創意工夫を凝らした新たな活動に取り組んでいます。

活動が単発から日常型へ

日高学区では、夏休み中の子供たちに、学習教室として一室を開放し、見守りボランティアを配し、涼しい部屋でいつでも自由研究などに取り組めるよう手助けをしています。また、ラジオ体操も好評です。親子連れやお年寄りなど、毎日約80人が参加しています。コミュニティの活動拠点の確立に伴い、活動は日常型へと歩を進めています。



毎日元気にラジオ体操

ユニークな生涯学習

油縄子学区では、新たに予算化さ



上達が楽しみ

れた生涯学習活動費で、8回シリーズの「男の料理教室」を開いています。料理は1回や2回で身に付くものではない。どうせやるならちゃんと役立つ“生涯学習”をと、楽しみながら悪戦苦闘しています。

子どもや高齢者の学びの場

宮田学区では、環境問題の学習体験を中心とした元気っ子体験村を開



わら細工にも挑戦

設しました。54名の多くの子供たちが集まり、3泊4日で楽しさや苦しみの思い出をたくさん作りました。

会瀬学区コミュニティ推進会では生涯学習の一環として、市長と高齢者の懇談会を、「元気なまちづくりのために」と題し、地区社協や老人会などと協力して実施しました。

かえてきた老人クラブ

多賀公民館の解散に伴い、多賀地区老人クラブ連合会が、学区ごとに分立したことにより、諏訪老人クラブの活動拠点が諏訪交流センターになりました。

事務局を務める諏訪学区コミュニティ推進会では、老人会と話し合いを持ち、高齢者のための生涯学習活動に取り組むことになり、最初の一歩として、専門家を講師に健康体操教室を始めました。老人クラブが学区に帰ってくることにより、より身近な活動が始まりました。

市民主体の活動に期待



日立市長
櫻村 千秋

今年4月から、公民館・コミュニティセンター・ふれあいプラザは、すべて交流センターとして名称や機能が統一されました。

交流センターは、多様化する住民ニーズに、効果的、効率的に対応し、住民サービスの向上をめざして、その施設の管理運営を地域の運営委員会の皆様に指定管理者として運営に当たっていただくこととなりました。

このため、公民館が実施してまいりました生涯学習事業及びコミュニティが行ってきた事業は、各地域が、自ら考え、企画し、実施するという、まさに市民の皆様が主体となった活発な事業として展開されることになります。

今後は交流センターがこのような事業を含め地域活動の拠点として、地域の皆様に愛され、ご活用いただける施設となりますようご期待申し上げます。

学区の活動 ホームページで

学区の活動をインターネットのホームページ(HP)で知らせる活動に取り組む学区があります。塙山学区では平成9年に開設し、その活動は全国的に知られてきましたが、平成16年に日高学区、18年には会瀬学区がHPを開設しました。

ぜひ、覗いてみましょう。日立市のHPからもリンクできます。

地域のカラーを活かした 23のコミュニ

今年度、コミュニティ推進協議会に十王地区が加わり、コミュニティ活動の拠点も整備され活動が前進します。各学区の会長（兼・交流センター運営委員長）のコミュニティ活動にかける想いやモットーを紹介します。

地域に根ざしたコミュニティづくり

十王学区 櫻村次男さん

「速やかに成長するものは早く枯れ、徐々に成長するものは永存する：ホーランド」。



地域のコミュニケーションを大切に、地域に根ざしたコミュニティづくりを目指します。

一人一役運動を進める

豊浦学区 鈴木裕さん

花いっぱい運動や夏祭り等を通じて地域住民のコミュニケーションを図り、一人一役運動を進める事をモットーとしています。



みんなの交流の場

日高学区 志賀勝弘さん

地域交流の活動拠点として、多くの方々に気持ちよく利用していただけるよう心がけています。



次代を担う子どもたちと大人との交流の場所ともしていきます。

住みよいまちづくりを实践

田尻学区 井坂義尚さん

統一管理に伴いコミュニティ推進会、社会福祉協議会、生涯学習の3本柱を軸に「住みよいまちづくり」に一蓮托生にて実践躬行に努めます。



利用者に協力を願って

滑川学区 遠藤進さん

滑川公民館は学区内による管理運営を行って来ましたので、今回交流セン

ター発足するに当たり支障なく移行することができました。今後、交流センターで行われる生涯学習事業について皆様のご協力をお願いします。



連携が一段と進む

宮田学区 大内十寸さん

生涯学習事業も軌道に乗り、学区事業と交流センターの連携も一段と増し、今後相当の期待が寄せられる段階を迎えつつあります。



潤いと憩いのある生活

中里学区 平塚信介さん

中里地区は少子高齢化が益々進む中、地域全住民が協力し明るい町づくりに取り組み、潤いと憩いのある生活が送れるよう努力します。



住民参加でまちづくり

仲町学区 古河利孝さん

まちづくりは人づくりを基本に、交流センターを拠点に安全で安心して住めるまち、住んでよかったまちを目指します。



「ふるさととは中小路」といえる地域に

中小路学区 横田寿子さん

桜並木の中心市街地。環境に恵まれたこの地域を「私のふるさと」といえるようなまちづくりをしていきたいと思ひます。住民皆の力で。



住んでよかったまちに

助川学区 永井久善さん

わたしが住む、あなたも住む助川のまちを、みんなで手をつなぎ、助けあい、美しい、楽しく、住んでよかったまちにしよう。



人材交流の交差点として

会瀬学区 柴田和彦さん

地域コミュニティ活性化を図る交流センターの果たす役割と期待は非常に大きい。地域の課題や解決に取り組む集会場所、生涯学習等自己研鑽の館として発展させたい。



心のふれあいを・・・

成沢学区 関正一さん

地域活動を進める中で、いろいろな特性を持った方々に接します。その特性を生かすべく心のふれあう活動をしたい。



子供たちの歓声が聞こえる街に

油縄子学区 嶋崎敏さん

少子化、不審者情報で街から子供の声聞こえなくなりました。地域の力で子供が元気に走りまわる街にしたいと思ひます。



心に残る「ふるさと諏訪」を!!

諏訪学区 齋藤邦夫さん

美しい山野や鮎川の清流と鎮守の森に囲まれた自然情緒豊かなところ。伝統文化を継承し、安心して暮らせる安全な地域社会の実現に、地域の皆さんの英知と力を結集し邁進します。



ティづくり 拠点施設の充実で前進・・・

新しい拠点で

大久保学区 蛭田保夫さん

この度、私達の拠点である大久保交流センターが開所しました。情報や物品の一括管理ができるようになり、関係者一同大変張り切っています。



世代間交流を重点に

河原子学区 梅原孝喜さん

交流センターを活動拠点に地域住民相互のコミュニケーションを図れる事業を取り入れながら、世代間の交流を重点に推進していきます。



新たな時代に沿って

塙山学区 西村ミチ江さん

新たな時代に沿って多彩な事業に取り組み、誰もが自分の地域に関心をもち、「こんなまちに住みたい」と言えることからはじめたい。子どもたちと一緒に！



ひとりでも多くの人の参加を

大沼学区 大江日出雄さん

「心豊かな、明るい住みよいまちづくり」を目指して活動をしています。一つの行事に地域の住民がひとりでも多くの方が参加できるように推進します。



交流の輪 大きな輪になあれ

金沢学区 鴨志田勝雄さん

名実共にコミュニティ組織が行政と協働できる地域の要として位置付けられました。生涯学習・サークル活動等を活発にして地



域交流の場にして欲しい。

住んでいる所を愛せるまちづくり

水木学区 瀬谷俊一さん

地域の活性化と安全・安心を願って、住民と意思の疎通を図り、今住んでいる所を愛せるまちづくりを進めていきたい。また、人材発掘に努めます。



元気なまち・大みか

大みか学区 山口勇さん

住民参加で「明るい・住みよい・福祉のまち大みか」を合言葉に、小さくても良いから確実に一歩を皆の英知で進めます。



他にまねできない福祉

久慈学区 星野高恵さん

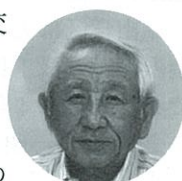
公民館との一体化による生涯学習については積極的に実行し、今後合流する社協との事業については他に真似できない本来の「福祉」に取り組めます。



地域財産として育てたい

坂下地区 根本通明さん

坂下地区は公共交通空白地帯であるが、現在実験走行中、本運行に向けて準備、交通弱者の足として定着させ、地域の財産として守り育てたい。



コミュニティ活動の拠点施設

地区および学区	拠点施設	所在地	電話番号
1 十王	(十王公民館)	十王町友部200番1	39-2411
2 豊浦	豊浦交流センター	川尻町1丁目40番1号	43-5755
3 日高	日高交流センター	日高町2丁目2番1号	42-4050
4 田尻	田尻交流センター	田尻町1丁目35番1号	42-1552
5 滑川	滑川交流センター	滑川本町1丁目21番1号	22-1654
6 宮田	宮田交流センター	本宮町1丁目6番1号	27-6835
7 中里	中里交流センター	東河内町1953番地2	70-8005
8 仲町	仲町交流センター	宮田町4丁目4番15号	21-5564
9 中小路	中小路交流センター	若葉町1丁目5番8号	22-6483
10 助川	助川交流センター	鹿島町1丁目21番7号	23-0955
11 会瀬	会瀬交流センター	会瀬町1丁目1番18号	25-1577
12 成沢	成沢交流センター	中成沢町3丁目6番10号	35-5587
13 油縄子	油縄子交流センター	鮎川町2丁目6番1号	38-7531
14 諏訪	諏訪交流センター	諏訪町4丁目11番1号	33-3841
15 大久保	大久保交流センター	千石町2丁目4番20号	34-0535
16 河原子	河原子交流センター	東多賀町3丁目7番5号	33-3746
17 塙山	塙山交流センター	金沢町2丁目11番5号	34-5404
18 大沼	大沼交流センター	東金沢町5丁目7番1号	35-8329
19 金沢	金沢交流センター	大沼町2丁目3番5号	36-3985
20 水木	水木交流センター	水木町2丁目23番20号	52-3225
21 大みか	大みか交流センター	大みか町3丁目19番16号	53-5211
22 久慈	久慈交流センター	みなと町3番10号	52-0165
23 坂下	久慈川日立南交流センター	大和田町2,208番地	52-3155

コミュニティ推進協議会 単会リレー訪問

小学校区をエリアにコミュニティ活動をする団体が平成18年度から23になり、それぞれ地域の特色を活かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくる活動を続けています。今回は塙山学区住みよいまちをつくる会を紹介します。

住民ニーズに応える新たな活動へ

～塙山学区住みよいまちをつくる会～

地区の特徴

塙山学区は大久保町3・5丁目と金沢町1～3丁目、塙山町がエリアです。昭和54年の塙山小学校新設にともない、昭和55年に会が発足しました。義民・照山修理の史実や、「大久保・金沢つるし米」の言い伝えもあります。

会の発足と拠点確保

会発足の翌年には市民センター建設運動をスタートし、昭和59年に日立市の1号館として塙山地域センターをオープンさせました。その後コミュニティセンター、今年4月から塙山交流センターとなりました。コミュニティ活動が飛躍的に進んだ要因の一つといえます。

活動の特徴

学区内を12地区に分け、自治会や町内会の自主的な活動を重視、塙山小PTA、子ども会育成会、塙山スポーツ少年団、塙山女性会をはじめ、塙山小学校、幼稚園、保育園などとも積極的に連携し、365日型まちづくりを進めています。

●コミュニティプランに沿って

平成元年に策定したコミュニティプランは、コミュニティアクションプランとして5年毎に改定、このプランに沿ったまちづくりを進めます。

事業は福祉局、安全安心局、地球局、楽集局、未来局、情報局、事務局の7局を中心に組み立てます。

●情報発信を重視

多様な事業は、毎月発行する広報紙「かわら版」で全世帯に知らせると同時に、学区内特設掲示板にポスターを掲示し広報に努めています。



平成9年にはHPも開設しました。

●子どもと一緒に活動

多様な活動に子どもを参加させ、大人と同じ体験を通して社会性や自主性のある「塙山っ子」を育てる活動をしています。毎月発行の「ふくしかわら版」の配達、「花の里親」の花植え、「クリーン塙山デー」「ゴチャッペ市」など数多くの事業に、子どもたちの活動する姿があります。

●会費制手弁当イズム

会発足の11月に開催した「住民レク大会」は1世帯100円の協賛金で開催、以来、「会費制のまちづくり」をモットーに活動してきました。現在は年会費1世帯500円ですが、様々な事業は会費制です。

●新たな活動への挑戦

高齢社会の実験事業として移送サ

ービス「ジャンボタクシー事業」を正式スタートしました。「暮らしサポートあんしん」もその一つです。今年度は、学区社会福祉協議会の会則改正を行い、「つくる会」への一本化に踏み出しました。

また、今年5月には総合型地域スポーツクラブ「塙山コミュニティク



毎週木曜日は元気なお年寄りの姿が

ラブ」が発足、これまで以上に健康やスポーツや生涯学習などの事業が充実、多様な住民ニーズに応えます。

今後の展望

今年度、塙山交流センターの増築が決定、事務所が広がり小ホールが建築されるのを受けて、お年寄りや放課後の子どもの居場所づくりに向けて動き出します。

指定管理者制度による地域管理となった交流センターには、コミュニティ・福祉・総スポのそれぞれの担当事務局スタッフが、月曜日から金曜日まで常駐する体制をとり、活動を支えています。

今後も「つくる会」は地域のコーディネーターとして時代に沿った新たな課題に挑戦し、いつまでも住みたいハナトピアづくりを続けます。



会長 西村ミチ江
事務局 塙山交流センター
TEL 34-5404
世帯数 2,843戸
人口 7,347人
(平成18年7月1日現在)